

# 手作り真弧ワークショップ



## 「遊びの連続」が織りなす歴史系ワークショップの実践

ちゃいれじ(鈴木康二、高橋碧、小森沙耶香、金山真樹、佐藤圭祐、八田友和、福永一衣、三原大史、土師唯我)

### 1、はじめに～ちゃいれじとは～

団体名の「ちゃいれじ」とは、こども(チャイルド)と回復力・反発力(レジリエンス)の造語です。

「ホンモノ!?体感!!こどもときづくワークショップ」をキーワードに、こどもを主対象とした、こどもの「知りたい」を応援するワークショップを企画・実施しています。関西の学生を中心に、現役の学芸員・教員、臨床心理士のたまごといったメンバーで、関西圏を中心に活動しています。

### 2、ワークショップの概要(8月28日:京都文化博物館) / 9月3日:高瀬川ギャラリー)

#### 【第1段階 真弧って何だろう?】



参加者は「マコってなんだろう?」という状態でのスタートである。

そこで、まずは真弧がどんな道具か知っていただく必要がある。真弧を手にとってもらい、スタッフが口頭で説明しながら、土器の欠片や石膏で固めたヤクルトなどを測ってもらう。

まさに、「百聞は一見に如かず」ならぬ「百見は一触に如かず」である。

使用方法や特徴など、真弧がどんな道具なのかわかったところでマコ作り体験に移行していく。

#### 【第2段階 材料を切る!そろえる!はさみこむ!】



〈作業工程〉

- ① 15本のマドラーを選ぶ。
- ② マドラーを半分に切る。
- ③ アイスキャンディの棒を2本用意し、片方に防水テープを貼り付ける。
- ④ 自分の好きなゴムを2つ選ぶ。
- ⑤ ゴムでキャンディ棒同士の端を固定し、その間に切ったマドラー30本を入れていく。
- ⑥ 全てはさみ終わると、もう1つのゴムでキャンディ棒をくくり、手作りマコが完成する。

#### 【第3段階 完成?いや、納得できない!】

手作り真弧が完成した。少なくとも、私たちスタッフも含め周りの大人はそう思っていた。

しかし、子どもたちは納得いかない様子…

「ゴムがきちんと締まっているか」「マドラーの高さがあっているか」など、子どもたちの厳しいチェックが入る。

単純な工程が多いとはいえ、手の込んだ手作りマコ体験である。自分で手直しできる場所は直し、ゴムをきつくするなど、自力ですることが難しい作業はスタッフや周りの大人に頼んでいた。



#### 【第4段階 あらゆるモノを測りだす!】



そして、ここからが本当のスタートだった。子どもたちばかりでなく、大人たちも身近なモノを測りたい衝動にかられる。そして、身近に置かれたものを手当たり次第に、時には人間の顔を手作り真弧や説明・展示用に準備したホンモノの真弧で測っていく。高瀬川四季airのききみずガーデンでは、鴨川にある石や田螺を測っている子どもたちもいた。測る対象物がなくなると、自分の指や鼻など体の一部を測り、両親の指や鼻の大きさと比較している子どもたちもあり、各々の子どもたちが自由な発想で真弧を活用した。私たちが「こういう測り方もありますよ」とアドバイスすることもあったが、多くの参加者は自発的に図る対象物を探していた。

### 3、おわりに～ワークショップは遊びの連続～

ワークショップを通じて発見できたことは、子どもたちの楽しい・嬉しいと感じるポイントである。実施者側は真弧の完成度に目が行きがちであるが、子どもたちは、1つ1つの作業を、笑顔で楽しそうに、また黙々と取り組んでいた。まさに、「1つ1つの作業=遊びの連続」なのだ。今回のワークショップの面白さは「真弧という魅了するモノ」「創り上げていくヒト」そして「遊びの連続」のなかにそのカギがある、と言えそうだ。

